



甲府における江戸後期町並復元研究

K00049 佐藤 洋平
K00055 助信 勇太

1 研究背景

1-1 山梨県甲府市について

山梨県甲府市は中世からの起源をもつ上府中地域と、近世初期に新たに建設された下府中地域の2元構造を有し、日本の都市形成史上、中近世移行期の状況を知りうる希少な存在として、高く評価されてきた。その一方で、甲府の市街地面積は第二次世界大戦でおよそ4分の3を焼失しており、現在修復の進む近世城郭を除いては、江戸時代の城下町をしのぶことのできる町並などが失われている。

近年、「甲斐国志」編纂資料中「御改め村方絵図-府中-」(文化四年=1807年)や、都市祭礼に用いられた幕絵下図の発見など、新しい史料による知見が得られるようになってきている。また、平成17年度開館予定の山梨県立博物館において、城下町を再現しようという動きが活性化してきた。これらは、中心市街地の空洞化が進む現在の甲府において、まちづくりの運動とも深く関わるものである。

1-2 甲府市の現況

甲府市は古くは戦国時代、名将としてその名を馳せた武田信玄公が国を治め、以来、甲府城の城下町として栄え、山梨の政治・経済・文化の中枢として発展した。

しかし、現在では全国ほとんどの旧城下町がなんらかの空洞化問題を抱えるのと同じように、甲府市も空洞化問題に悩んでいる都市である。

甲府市の中心市街地は、空き店舗・未利用地の駐車場化等が進んでいる。また、小型小売店舗の撤退により、区域内売場面積の2割程度が減少した。他には、モータリゼーションの進展や、その対応の遅れ。中心地域の駐車場の分散や歩道の不連続性、段差などのインフラの不整備があげられる。

昼間でも人通りは少なく、活気がない。商店街はシャッター街と化し、どこか空虚感を漂わせる。

2 目的

本研究では、近世甲府城下の町並を復元考察することを目的とする。対象地域は下府中町人地区の中心である柳町筋(東西街路・図1の①)、および、それと交差する八日町筋(南北街路・図1の②③)とし、対象時代は「甲斐国志」編纂資料「村方絵図(内藤家文書)」における町割状況を主史料とするため、同書の編纂時期であった文化〜文政期(1804年〜1830年)を中心に考察する。

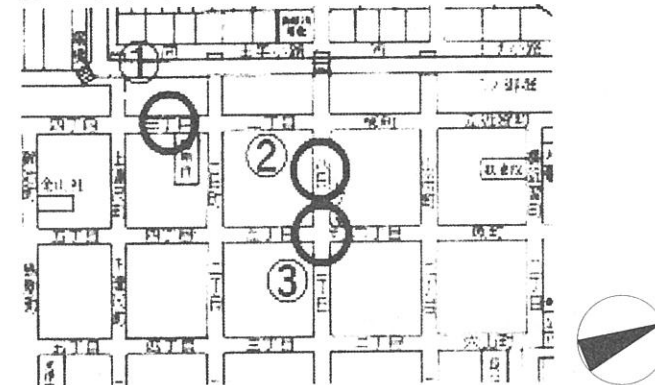


図1. 調査対象地域(「懷宝甲府絵図」(嘉永二年=1849年)より)

なお、復元研究の成果は、新設の山梨県立博物館における展示模型(1/15)の基本資料となる予定である。

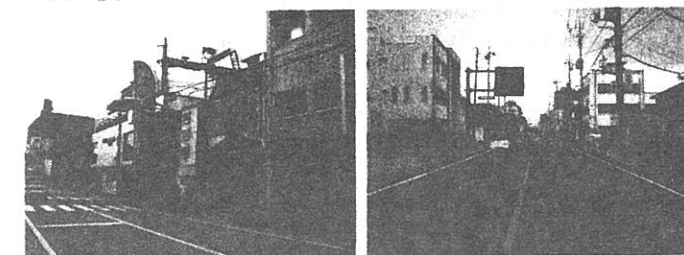


写真1. 現在の柳町筋西面

写真2. 現在の八日町筋

3 研究方法

町並復元の主資料として、上記「村方絵図」のほか、市指定文化財石川家の実測結果・大木家所蔵絵図・明治期の古写真などを用いて、復元を行う時代の建物をCADで立ちあげる。そのほか、当時の商家を一覧で著した「甲府買物独案内」(嘉永七年=1854年)という当時のタウンページや、町割図を用い、どのような商家が町並を形成していたかを分析・再現する。

4 研究内容

4-1 活動記録

8月27日 石川家住宅の実測調査

8月28日 町並復元の対象地域である柳町筋(現在の中央四丁目)と八日町筋(現在の桜通り)及び甲府市内の探索

以後、随時史料収集と分析を行った。

4-2 石川家住宅

上記のように、実測調査を行った復元の基盤となる石川家住宅は、天井高が復元時代の建物としては高いものの、間取りや意匠などは伝統的なものを引き継いでいる。

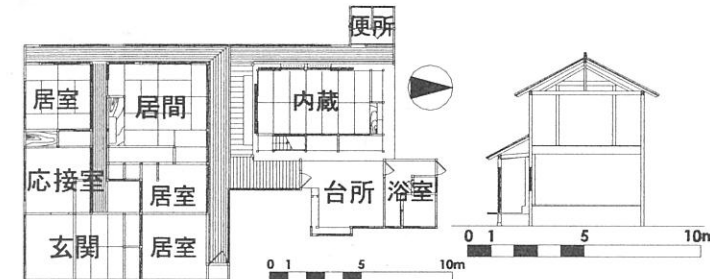


図2. 石川家住宅現状平面図

図3. 石川家住宅断面図



図4. 石川家住宅南立面図

4-3 大木家住宅

「大木家所蔵見取図」(文化十一年=1814年)に基づき大木家の平面を復元した。

大木家はかつて江戸期から昭和の第二次大戦前まで甲府で呉服商「おふどう」として栄えた豪商であった。

大木家は横近習町の町家であるが、通り方向が八日町と同じため、八日町の史料として参考にする。

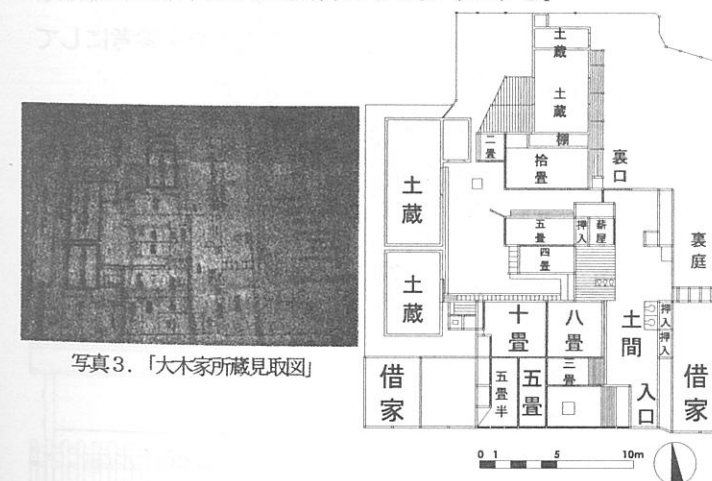


図5. 大木家住宅平面図

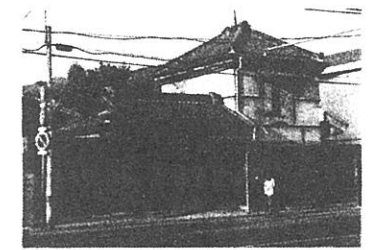


写真4. 大木家解体前写真

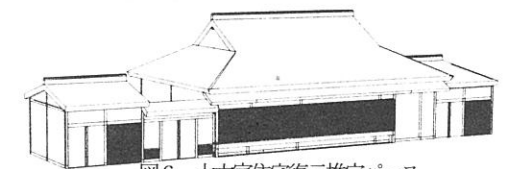


図6. 大木家住宅復元推定パース

4-4 柳町三丁目の地割とその史料

文化・文政期の柳町三丁目の地割を確定するにあたって、間口は主史料である「村方絵図」から用い、地尻は「甲府市大字柳町全図」(明治期)から、また現在の地図と比定し、確定した。

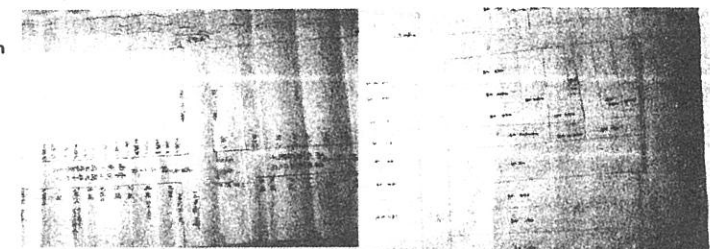


写真5. 「村方絵図」(一部)

写真6. 「甲府市大字柳町全図」(一部)

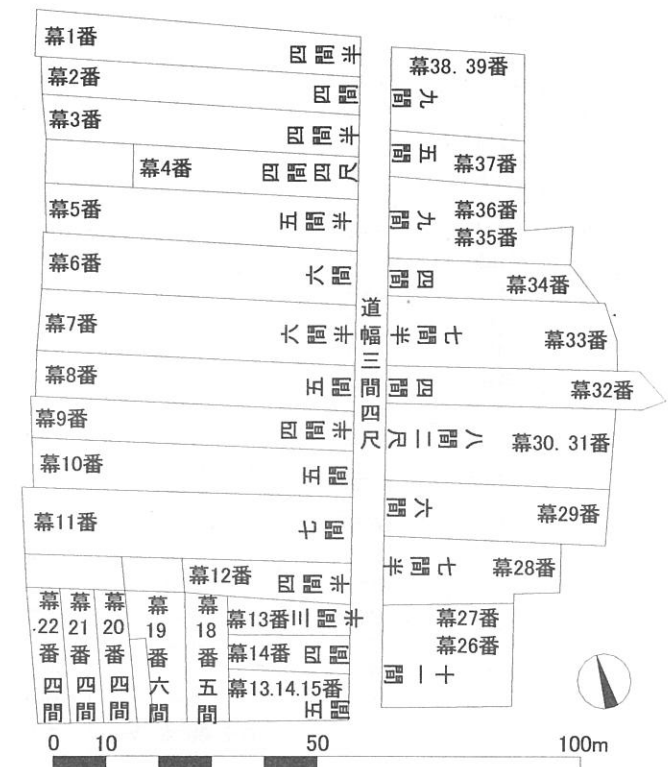


図7. 柳町三丁目地割図

4-5 甲府道祖神祭礼とその史料

甲府道祖神祭はかつて当国一大盛事で、武田信玄時代より以前に存在しており、毎年小正月に盛大に行われ、魔除け・災難除けの祭りとして親しまれていた。また、店先に飾られた幕絵にお金をかけ装飾し、豪華さを競い合い見物した。しかし、明治五年（1872年）に華美と喧騒が過ぎた為にとりやめとなってしまった。

近世柳町三丁目の各敷地の屋号と所有者は、上記甲府道祖神祭で飾られた幕絵の順番と所有を記した「幕番付」（嘉永五年＝1852年）より確定できる。

当時各家において取り扱っていた商品は、幕番付から得た屋号と所有者を「甲府買物独案内」や「諸国道中商人鑑」（文政十年＝1827年）に照らし合わせると、以下表1のようになる。

表1. 柳町三丁目幕絵所有者

幕絵順番	屋号	所有者	商い	間口
1	富士井屋	定兵衛	不明	四間半
2	太田屋	太兵衛	太物類・綿繰巻	四間
3	漆屋	清三郎	漆	四間半
4	井筒屋	専蔵	不明	四間四尺
5	井筒屋	沢兵衛	不明	五間半
6	丸屋	友助	太物類	六間
7	奈良屋	太七	宿	六間半
8	ふじみ屋	富次郎	不明	五間
9	上野屋	甚蔵	不明	四間半
10	ふじみ屋	榮輔	不明	五間
	漆問屋	き助	漆	
11	柏屋	藤兵衛	御伽羅之油	七間
12	加わちや	弥右衛門	不明	四間半
13	河内屋	平兵衛	不明	三間半
14	松屋	嘉兵衛	古着肆	四間
15・16・17	境屋	孫兵衛	薬種	五間
18	—	堺孫抱屋輔	不明	五間
19	境屋	平七	薬種	六間
20	大阪屋	清左衛門	不明	四間
21	漆屋	藤輔	漆	四間
22	境屋	宇八	薬種	四間
23	竹屋	比市介	不明	四間
24	梓屋	長介	不明	三間
25	ごせや	源五郎	不明	四間
26・27	大黒屋	六郎左	不明	十一間
	太田屋	佐兵郎	糸肆・麻類・萬打物類・綿繰類	
28	中屋	保兵衛	不明	七間半
29	寿々木屋	太吉	不明	六間
30・31	蛭子屋	清兵衛	不明	八間二尺
32	蛭子屋	吉蔵	不明	四間
	山形屋	現太郎	不明	
33	いづみや	恵助	宿	七間半
34	山形屋	喜八	不明	四間
35・36	井筒屋	新五兵衛	菅笠・銅金類・畳表	九間
	蛭子屋	勇蔵	畳表	
37	神明宮	—	—	五間
38・39	吉字屋	孫兵衛	鹽・燈油	九間

4-6 八日町一丁目・二丁目の地割とその史料

文化・文政期の八日町一丁目・二丁目の地割を確定するにあたって、間口は主史料である「村方絵図」から用い、地尻には隣接する町の町割図である「甲府三日町屋敷敷図」「甲府市大字柳町全図」「甲府山田町ほか町屋屋敷敷図」から確定した。

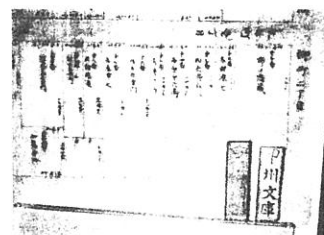


写真7. 甲州文庫（一部）

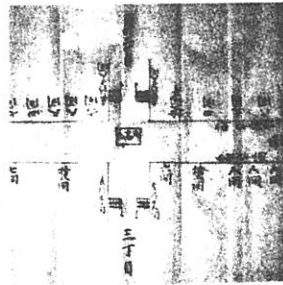


写真8. 村方絵図（一部）

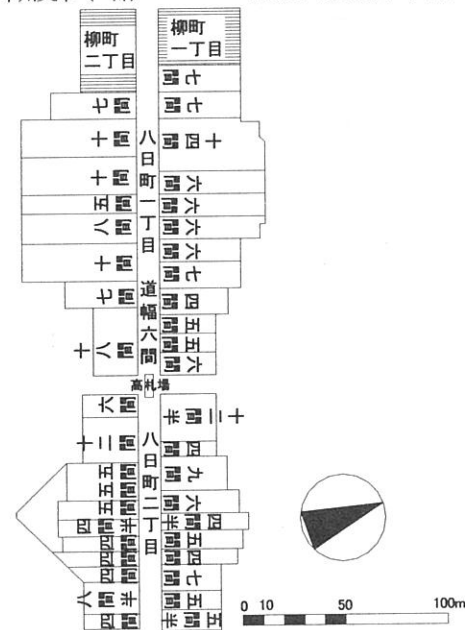


図8. 八日町一丁目・二丁目地割図

5 復元

5-1 八日町一丁目・二丁目

八日町一丁目・二丁目のうち辻の高札場については写真9の史料を基に平面図を、また写真10を参考にして立面図を作成した。

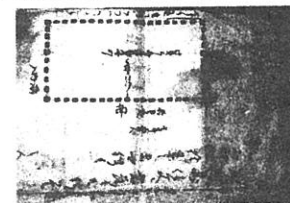


写真9.

「寛文十一年八日町老丁目
高札矢来建直入札」

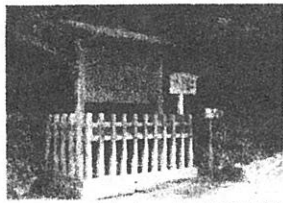
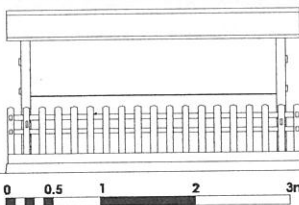


写真10. 川崎市立日本民家園高札場

図9. 高札場復元立面図



5-2 柳町三丁目

柳町三丁目のうち、以下の三棟については古写真の史料を参考に立面図を作成した。

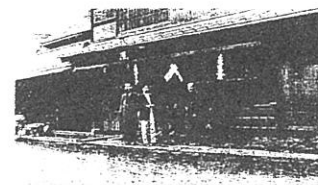


写真11. 吉字屋 古写真

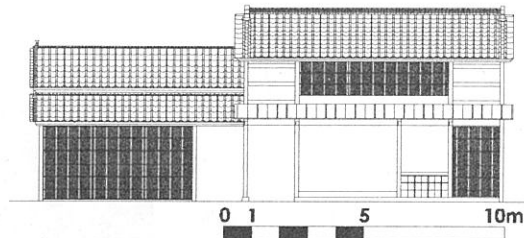


図10. 吉字屋復元立面図（図7中、幕38.39番敷地）



写真12. 大黒屋笠井商店 古写真

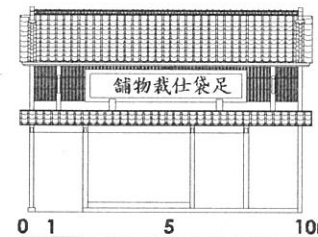


図11. 大黒屋笠井商店復元立面図（図7中、幕8番敷地）

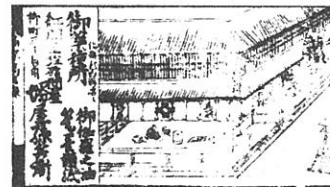


図12. 「諸国道中商人鑑」より堺屋

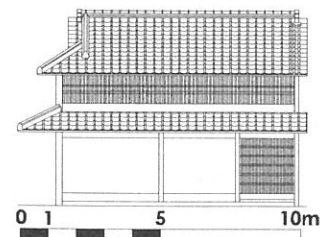


図13. 境屋復元立面図（図7中、幕15.16.17番敷地）

6 考察

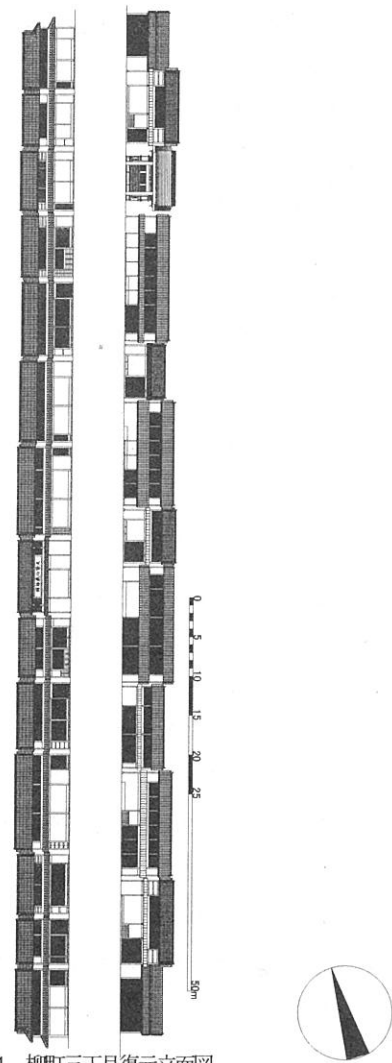


図14. 柳町三丁目復元立面図

柳町三丁目の町並は上記の図14のようになった。

土間方向が同一方向に統一されているのは、町家の特徴の一つであり、柳町三丁目については吉字屋の古写真や柳町周辺の町家の土間方向を参考に検討した結果、北土間であると推定した。

柳町三丁目、八日町一・二丁目共に現代の地図と比定した結果、道幅は広がったものの地尻は当時の形を引き継いでいるものが多かった。

7 結び

今回復元した町並の様子は、甲州街道の宿場町として繁栄していた頃の甲府である。このように失われた町並を復元し当時の様子を知ることが、現在のまちづくりにも繋がるのではないだろうか。

参考史料——

甲斐国史『御改め村方絵図一府中一』 文化四年（1807年）

『幕番付』 嘉永三年（1850年）

『甲府買物独案内』 嘉永七年（1854年）